

第4回栗東駅周辺まちづくり検討会議

議事要約

平成26年9月30日（火）午後7時30分～
コミュニティセンター大宝 大会議室

1. 開会

2. 市長あいさつ

（省略）

3. 報告事項

（1）栗東駅周辺まちづくりに関するアンケートの結果報告

《資料説明（事務局）》

（省略）

4. 協議事項

（1）栗東駅周辺まちづくり基本方針（素案）について

《資料説明（事務局）》

（省略）

《意見交換》

委員

前回の会議で地区計画について発言させていただいた事により、アンケートの中でパチンコ店がない、などの項目が盛り込まれたと理解している。

話を後戻りさせるつもりで言うのではないと、予めお断りさせていただいた上で述べさせていただくと、我々はパチンコ店やカラオケボックスを誘致すれば良いと考えているわけではない。むしろ、青少年の健全育成の観点からは、そういった業種は望ましくはないと考えている。

我々、商業者の視点で見ると、地区計画で道路に面する部分の壁面後退、スペース利用の制限などが出店の際の大きな負担となっていると認識している。できるだけ早期に地区計画を見直す必要があるのではないかと考えている。

また、このまま栗東駅周辺の商業の地盤沈下が続けば、買い物困難者が出てくる恐れがあると感じている。

サティが撤退して空洞化したのち、アルプラザさんに入居していただくに至るまで

どれだけ苦勞したか。アルプラザがいつまでも栗東駅前であり続けることを当たり前として考えることは危険である。大きい企業であればあるほど、シビアに収支ベースで撤退の決断を下すものである。利益が出なければ撤退が現実としての選択肢になってくる。今後、時代の流れで栗東駅前の疲弊がさらに進めば、分からないのが実情ではないだろうか。

栗東駅前は若い街だと言われており、あまり目を向けられていないが、実は高齢者も相当数居住しており、高齢者の単身世帯が増えていることが分かってきた。今の状態がこのまま続くのが当たり前と考えてはいけない。

地域経済を活性化するなら、もっと踏み込んで地区計画を検証する必要があると考えている。

地域住民は静かで住みやすい街を望まれることは当然の帰着点。しかし、にぎわいが実現せず、沈んだ状態のままであれば、将来的に買い物難民が発生するような状況に陥り、住みやすい街ではなくなると危惧している。

事務局

今回のアンケートでは、栗東駅周辺に住まう住民による現時点での評価が確認されたと認識している。結果的には栗東駅周辺のこれまでのまちづくりは、まずまず評価されたと感じている。

一方で、商業者のご意見が含まれていないことは、市としても認識しており、今後、商業者の意向も踏まえながら、地区計画の検証を行いたいと考えている。

事務局

栗東駅前のまちづくりについて、深く考えていただき感謝申し上げます。

市としても、これまでのまちづくりの経過も含めながら、あらゆる角度から総合的に検討しなければならないと考えている。これから様々な議論を重ねていきたいと考えている。

委員

栗東駅周辺まちづくり基本方針（素案）を拝見しての第一印象は、アンケート結果を重視して無難にまとめてある、というものだ。栗東駅周辺に居住する受益者だけを重視していると、商業者の意向と相反する部分が出てくることになる。静かな居住環境をあまりに重視すると活性化は難しい。

中長期的には、もっと活性化につながる大胆なプロジェクトを盛り込むべきではないだろうか。もっと大きな文化遺産ができるように盛り込んで10年後、20年後を見据えた夢のある計画を策定する必要があるのではないかと感じる。

大きなビジョンを描かなければ、市民は付いてこない。新幹線が停まらなかったら工場の跡地が残ってイメージも良くない。

例えば、事業者も市民も行きたくなるアミューズメント施設や大学の誘致など、夢のあるものを描かなければ、いつまでも活性化は実現しない。

栗東ならではの何か、大宝神社や中山道も生かし日本の中心を目指すくらいのことをご検討願いたい。やはり、商業、工業が活性化しなければならない。

事務局

貴重なご意見ありがとうございます。栗東駅前の祭りなど、民間からの大きなご協力をいただいて地域の活性化に貢献頂いていることも含め、全体で考える必要があると考えている。

だからこそ皆様の貴重なご意見をいただき、また、アンケートを実施して住民のご意見も大事にし、さらには総合計画、商工ビジョン、行動計画などの策定プロセスを通じて、様々なご意見を参考にさせていただきながら進めていきたい。

全てのご意見、ご期待に応えられる回答をずばりと言うことは難しいかもしれないが、まずは、ご意見の中から一つ一つできることを具現化し、形にしてお示しすることが一番大事な姿勢でないかと考えている。

事務局

栗東駅周辺まちづくり基本方針（素案）は、策定中の総合計画との関連もあり、10年間を一つの区切りとして整理している。ご意見はその先の長期的なスパンでのものと理解している。次の総合計画に向けて何を反映することができるか、今後の取り組みを通じてしっかりと検討していきたい。

委員

アンケートの回収率が31%となっており、あまり高くない。このことから、市民は栗東駅周辺に高い期待はしていない、あまり関心を寄せていないのではないだろうか。そのような状況の中では、市長の発言にあったように、一つ一つ目に見える形で具現化することによって、市民の目に留まり、次第に関心が高まっていくのではないだろうか。

現状は、残念ながら商業的には閑古鳥が鳴いている。活性化の道は大変厳しいと感じている。

事務局

私自身、サティ撤退の当時のことは、つい昨日のここのように覚えている。今現在もトップセールスとして平和堂さんに限らず様々な事業者と対話に努めている。

ご検討いただいたことに対し、どのような手立てが打てるか、一つ一つ積み重ねが大事だと感じている。

委員

平和堂さんが入っていただいたことで、まだ、しばらくは買い物に困る心配は少ないが、このままでは、いつか、サティさんの二の舞になりかねないという懸念もある。今後とも地域に定着いただくためにも、一定のにぎわいが必要ではないだろうか。

委員

商工会さんと共に連携してウイングプラザを運営させていただいている。現状では空きテナントもいくつかある。テナント入居に向けての引き合いや折衝もあるが、人通りが少なくにぎわいに欠ける、ということで、最終的にはテナント出店に至らないパターンが多い。

商業の活性化は、住民の利便性向上につながる。地区計画の見直しのスピードを上げていただけると良い。そうすれば、街が動き出す機運ができてくるのではないだろうか。

事務局

アンケートの回収率の低さについてのご意見がありましたので、ご報告申し上げます。今回の調査における回収サンプル数を見ますと、統計学的な見地からは十分に意向把握が捉えられる数が確保されています。

委員

生活者である住民の感覚からでは、ちょっとした買い物ができ、日頃の総菜が購入できれば十分なのではないだろうか。駅前住民だけの意見を聞いているは、栗東駅前の活性化は実現しない。大阪などは全国から観光客が来て活性化している。栗東駅へ人を呼び込む視点が必要になる。

栗東の観光施設に他都市から行ってみようという機運にならないといけない。今の観光コースを見ていると、草津駅から金勝へ向かい、帰りは手原駅を使うプランになっている。栗東駅を使っていない。栗東駅前を活性化しようと考えたら、栗東駅で人を降ろすことを考えなければいけない。

守山の芦刈園は、さほど目新しいものはないと思うが、遠くからあじさいを見に多

くの人が訪れている。栗東市ももっとPRしていただきたい。

栗東駅周辺のにぎわいは、税収などの面も含めてどのようにすれば良いと考えているのだろうか。私個人は、もっと栗東駅の乗降客を増やすべきだと考えている。

私の地元でも元気創造まちづくり事業の助成金を申請している。我々は栗東駅周辺の環境美化、これは単なる花植えではなくて、栗東駅に降り立った人にもてなしの気持ちが伝わるような、底辺からの取り組みをしようと考えている。

事務局

まず、周辺駅も含めた特性を見ますと、栗東市民は、栗東駅だけでなく草津駅、手原駅を含めた3つの駅、さらには守山駅にも依存されており、それぞれに使い勝手が異なり、現状で栗東駅へと利用の集約化を図ることは難しい面がある。それぞれの駅勢圏、特徴を踏まえて考えなければいけない。

観光に関しては、金勝のハイキングのシャトルバスは、JRとタイアップしたものについては、栗東駅から手原駅経由で運航している。

通勤通学については、それぞれの利便性で駅が選択されている。

JRAを活用しながら栗東のネームバリューを高めていくなどの方策に取り組む必要があると考えている。草津駅は新快速が停車し、便利だが観光バスの乗り入れ環境の面や栗東市として草津駅の利用を誘導するような取り組みをする必要があるのか、という視点からも栗東駅を利用していただくようにしているが、現在、参加者の多くが市外、大半が県外にお住まいの方であり、草津駅で新快速から普通に一度乗換えていただくなど、大変な不便をお掛けしている。

また、栗東駅には観光案内所がない現状では、観光客増加を望むことも困難であり、まずは手原駅に整備したブースを活用していくことを考えたい。

現在の観光振興の受け入れ環境整備の考え方が、新幹線新駅ありきのものとなっており、これからは実態に即した新たな環境整備を検討する必要がある。

例えば、栗東駅周辺では市内の土産を買っていただく環境も十分ではないと考えている。

委員

すぐにでも実現できることについても考えていく必要がある。我々も地元で何かイベントを打っていきたい。例えば、花と緑にテーマを絞るとすれば、寄せ植えコンテストなども魅力的な事業になるのではないだろうか。空き地の活用などを企画に取り込むことを考えると市の計画との関連も出てくる。

たちまち、栗東駅利用者の増加が難しければ、近くの住民が駅前のスペース利用をするように考える必要がある。

事務局

今日までの皆様のご意見や市内部の検討も全て含めてできること、行政がやるべきこと、皆様と連携、協働してやることを整理して取り組みたい。栗東駅の乗降客も伸びてきている。伸び率は県内でもかなり高いはず。それを皆様に実感いただける状況をどのように作れるかを考えている。

これからもさらに様々な観点から吟味して取り組みたい。とりわけエレベーターやバリアフリーは喫緊の課題と認識している。

アルプラザ、栗東市商工会、栗東都市整備なども含めしっかり連携して進めていきたい。やはり、人が動かなければ物事は動かず、にぎわいも出てこない。

先日のバル事業を見ている、人の動きが見えることが非常に重要であり、効果的だと実感した。イベントも大事であり、イベントのにぎわいを普段、平常のにぎわいへとつなげることや、イベント実施を通じて人のつながりをつくることも大事である。

委員

せっかくなのでお聞きしたい。当然、行政としては、石橋を叩くような慎重さを持って進める必要がある。最初から栗東駅前の活性化はなしえないと考えているのだろうか。

小さなことから進めていくと、小さなことで埋まってしまって大きなことができない可能性がある。短期、中期、長期の仕分けは分かるが、一つ大きなものはないだろうか。例えば、新幹線新駅のような起爆剤、夢物語を出していただくのも重要だと考える。

事務局

夢はいっぱい詰まっていると考えているし、後継プランや積水の跡地利用など、現段階で公にはできないことも含めいくつか水面下でのプロジェクトがある。

また、小さいことで埋めていったら、大きなことをやる時に支障になるという考え方もあるのは理解するが、新幹線新駅の件など難しい事後整理について一定の進捗が図られ、少しずつ前向きな雰囲気が出てきた。非常に大事なことだと考えている。

市全体の発展を見据え、前を向いてやるということはたくさんあると考えている。条例を制定し、商工ビジョンを策定、ロードマップで具体的に示していきたい。広く意見を聞き、皆様の想いを吸い上げ、良いものが花開くように努力したい。

委員

積水ハウスの跡地については何か考えがあるようだが、上鉤の課題もあり、また、栗東駅の西側では、今、様々な開発業者が入り込んで来て、地元ではその話題で持ちきりとなっている。

栗東駅前だけでなく、少し広い範囲での開発を念頭にプロジェクトを検討いただきたい。

東口から西口への道は、実現までにはかなりの時間を要すると思うできるだけ早く前へ進めていただきたい。

また、観光振興だけでなく、就労人口を増やすことが重要ではないだろうか。駅周辺の就労人口が増えれば、駅の利用者数も伸びる。

事務局

新幹線新駅の後継プランの計画地内でL E J 関係を含め、5～6社程度は進出を決定されている。本日もトップセールスをさせていただいた。

事業者の話を聞くと、栗東で従業員の募集をかけても応募があまりないそうである。

地元雇用、地元企業との取引をお願いしているが、反応はなかなか厳しい。それでも辛抱強く続けていくことで広がって行くと考えている。

事務局

J R 東西を連絡する道路については、現在、守山市と共同で大門野尻線の整備を進めており、びわこ線をアンダーパスで潜る区間は、今年度から概ね7年程度を目途に守山市が事業化を進めていく。

大宝公園に隣接する区間、中山道と二町播磨田線の間は、栗東市が中心となって進めていく。

大門野尻線が栗東駅周辺地区の外周道路として整備されれば、東西の連絡や駅利用の活性化につながると考えている。

事務局

一日も早い実現を目指している。所有者のご協力を得ながら進めなければならない関係上、明確に何年までに、と言い切れないが、目標を持って守山市と連携して進めていく。

委員

駅前の周辺まちづくりについては、どの程度の予算が考えられるのか。それによってできることが明確になってくる。

中国から帰って来て、ご縁があつてこちらに来ることになり、栗東市は緑、花が美しく素晴らしい街だという印象を抱いている。ハナミズキ、ツツジなどがとても美しい。

予算を大きく掛けることができれば、様々なやり様があるだろうが、現実には予算は限られているだろう。

栗東駅前には、緑や花を活かしながら、少ない予算で人を引き付けるまちづくりができるのではないかと考えている。菜の花やアジサイ、キンモクセイなど、四季を通じて楽しめるようにしてはどうか。無料情報誌、旅行誌などと連携してアピールすれば、お客さんを呼べる。

新快速の停車や道路整備も重要だと思うが、アピールも非常に重要なことだと考える。ちょっと一工夫してつくりこめば、宣伝次第で人を集めることはできる。ポイントをうまく抑えて少ない予算でも魅力を高めることができる。

事務局

栗東駅前地区のまちづくりの当初の段階から緑については積極的に進めてきた。お示しした栗東駅周辺まちづくり基本方針（案）の中にも、出歩くのが楽しいまちづくりとして掲げている。

委員

個人的な思い入れではあるが、住民のボランティアを結集し、花に溢れた駅前をつくりたい。学区としてボランティア組織をつくりたいと考えている。住民にはその意欲がある。それで人が呼べれば、お茶を飲みながら時間を楽しめる場をつくっていくなどの流れをつくるべき。空きテナントに無料で使える公益的用途を安易に入居させるのではなく、しっかりと経済活動が展開されるように考えるべき。商業テナントが入りやすい環境づくりも重要。

ムクドリの問題がひどい。憩いの場にもならない。樹木の剪定をしないからでないだろうか。

事務局

いくつかの樹木を選定して欲しいとの要望があり、対応させていただいた。予算の関係もあり、すべてのご要望にこたえることは困難であるが、これからは駅前通りについては選定していきたい。

事務局

ご要望をいただいていることは確認している。やるべきことを整理して何らかの対応をしていきたい。

委員

元気創造まちづくり事業として、地元が提案、実施する事業に交付金が出るようになり、少しは財政状況も上向いているのか、と感じている。しかし、必要なことができないのであれば、地域によっては四苦八苦して事業を探すくらいなので、必要な事業に予算を使うべき。

事務局

ムクドリの関係については、環境、農林、道路管理者と関係部署で協議し、まずは、道路管理者として剪定を行い、そのことについては当事者にもご報告をさせていただいている。さらに、単にムクドリのためでなく、樹木が生育し剪定を定期的を実施すべき時期に来ていることから、今後は年次的、定期的に剪定を進めていくことをご報告し、ご理解いただいている。

栗東駅前のまちづくりの当初より、水と緑のショッピングタウンを掲げて、常緑樹、落葉樹を育ててきた。ムクドリを追い払うことしか現状としてできない。

委員

自治会の小さな公園でも、剪定を怠ると木が大きくなって鳥が巣を作る。ボランティアだけではできない。予算がないという返答では市民の不安感が募る。

事務局

予算の範囲内でしっかりと必要な事業を進めさせていただく。

5. その他

特になし。

6. 閉会(副市長あいさつ)

(省略)

以上